

中世の愛媛〜甞る道後湯築城跡より

中世

小野 正敏



青いシートがある地区が整備対象の地区。(写真はいずれも愛媛県埋蔵文化財調査センター資料)

今、湯築城は歴史公園として整備の真つ最中である。市民の前にその成果がビジュアルに姿を見せる日も近いのであると期待される。松山市は、湯築城と松山城という伊予の中世、近世を語る大きな歴史遺産を二つセットで抱えている。うらやましいことにその両方ともが非常に保存状況がよく、全国的にみても希少な財産なのである。

湯築城は、私のような考古学を勉強している者や、城館の好きな者を引きつけてやまない魅力的な遺跡である。なによりも謎が多いのがいい。いや謎だらけの城といえる。考古学とは不思議なもので、発掘調査が進むと進んだだけまた新たな謎が増えていくものらしい。だからいつも仮説をたて、調査をし、その結果を研究して、また仮説をたて、またそれを検証していく。そんな繰り返しが必要なのである。発掘成果の紹介は、調査担当の方々にまかすのが筋である。ここでは、自分の興味をもつ視点からそんな謎の一つを述べてみたい。

なぜ河野氏は道後に城を作ったのか。いうまでもなく、湯築城は室町



空からみた湯築城跡、

時代に伊予国を支配した守護大名河野氏の本拠、守護所である。つまり今風にいえば、ここは県庁にあたる場所である。多くの場合、諸国の守護所は府中つまり古代の国府があった土地を継承することが多い。伊予でも鎌倉期の守護所は今治にあった。もともと国府+今治の津のように、政治的にも経済的にも一国のセンターとなるべきもつとも卓越した土地に作られているため、その機能を継承できるメリットがあり、また、当時の人々にとっては府中に入る人がこの国を治める権力者であるという権威の象徴性が土地に意識されていたからともいえる。

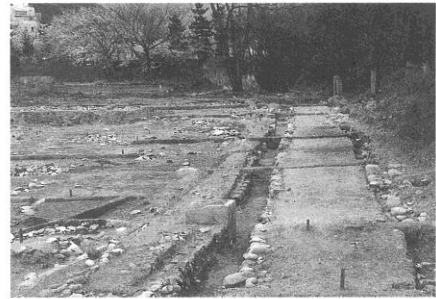
それが道後に移動したことは、府中がもつ権威の象徴性や経済のセンター機能に匹敵するものが、この地にあったことを考えねばならない。それが聖なる温泉が湧く地、温泉を核として寺社や町屋が賑わう道後の町であった。古来より、「伊予の湯」の歌謡が都に伝わるほどに有名であり、中央から皇族、貴族、官人、文人などが訪れる、都との関係が深

い土地であったと川岡勉氏は指摘する。文化のセンター機能もまた必須の条件である。さらに瀬戸内航路からは、三津浜という玄関港をもつ。そうした道後がもつ諸条件こそが河野氏の守護所を権威づける舞台装置となったのである。まさに道後の温泉とともに存在したのである。

ところで、湯築城は城郭なのだろうか。私は、最初に現地を訪れたときにそんな過激な疑問をもった。湯築城は、真ん中に小さな丘をもつ、土塁と堀で囲まれた円形の縄張りのめずらしい城として知られている。ところが、図面では気づかなかったが現地にあたると、南北約320m、東西290mと全体がとても小さい。そして、城郭的な施設を作るにはあまりに低く、小さい丘であった。さらに、丸いという堀も、東と西の堀は直線的で平行に近く、ちよど各中央の相對する位置に大手と搦め手とされる東門と西門がならぶ。ご丁寧に鬼門にあたる東北の隅は、鬼門除けのように堀が入り隅になっている。これは単に条里地割りの影響で四角いだ

けではなくもつと積極的に、城郭というよりも政庁としての方形の守護館を強く意識していると感じたのである。つまり現在湯築城といっている堀の中全域を守護河野氏に直接関わる空間とする見方である。当然集住した家臣団などの武家屋敷群や町屋はその外にあることになる。確かにサイズは西国の豊後大友館や東国の甲斐武田館の一边200m四方に比べても大きく、きちんとした方形の館とはいえない。しかし、それは丘を取り込んだことと関係するのではないだろうか。

むしろ湯築城は、この丘を取り込んで守護所を作ることに重要な意味をもったと考えたい。この丘は「伊佐爾波岡」と呼ばれ、今は町の北側の山上にある延喜式内社である伊佐爾波神社が古くはここにあったと伝承される。また、発掘によれば、丘東裾の現ランド部分の下層からは、古代の寺院の存在が明らかにされ、鎌倉時代の陶磁器も出土している。河野氏は、そうした古来よりの由緒ある聖地を取り込むことで新たな土地で新しい支配者としての宣言をしたのだと考える。特に、山裾の



土塁内側の道路跡と庭園地区。

発掘された中国産の青磁や
染付と東南アジア産陶磁器。
様々な陶磁器が流通し、湯
築城の生活を支えた。



しかし、この湯築城の基本的な問題を考えるためには、グラント地区と旧動物園東地区下層の発掘が行われなければ結論が出せない。つまり、もっとも重要な問題さえもまだ調査されていないのである。また、丘の西側、西門から北の地区の実体も不明である。西尾和美氏によれば、時代は下るが「予陽河野家譜」などの記録から、来島通康が城の西麓に館を構えていた可能性があるという。同じように、堀の外の状況はどうであろうか。例えば、西門の外の電車通りに面して1辺が100mをこえる堀で囲まれた館が発掘されたという。湯築城を、堀のただで切り取らずに、外縁に広がっていたはずの武家屋敷や町、市などを包括した世界として大きく見詰め直すことが必要であろう。まだまだ謎だらけである。

湯築城の出土品も多くの謎を語りかけている。あの出土した陶磁器の量の多さと質の高さは、まさに河野

内堀土塁下面からは14世紀代の火葬墓がみつかるなど、堀と土塁で囲まれる以前のこの場所の性格を暗示している。また、丘上の展望台北側の平坦地からは15世紀前半の建物が発掘され、そこから舍利容器とされる水晶の小五輪塔が出土した。さらに丘の斜面部には儀式に使用したかわらけと呼ぶ土器の皿が大量にすてられており、河野時代もここが宗教的、儀礼的な聖なる空間だったことがわかるのである。

それでは守護河野氏の政治や日常生活に関わる空間はどこにあったのだろうか。旧動物園地区つまり、東門をはいった南側の土塁で区画された大きな屋敷と庭園区画がならぶこの範囲こそが、河野の中核であろうと考える。

湯築城の調査の初期に、武家屋敷群が発掘されたとの報道があった。それは、堀の中を城下町を含む惣構としてとらえることを前提としており、そこに道路に面した屋敷が発見されたことが、そうした理解になったのであろう。そうすれば、東門を入ってすぐの最も広いグラント地区の空間に政庁的な館を予測するのである。

が、一般的な空間構造にそった考え方である。しかし、その発掘結果では、東門から丘にまっすぐにのびる道路となにもない広場とのことであった。ここには中心となる政庁的な河野の館はなく、馬場を想定させるような広場であった。ただし、下層の段階では、この道路のすぐ脇に礎石建物が検出されているので、規模は不明ながら初期はここにそうした空間があり、途中でほかに移動した可能性も考えられる。

越前一乗谷や豊後大友館、周防の大内館など、当時の守護クラスの館を模式的に示すと、南側にハレの空間がとられ、表門につながる広場と主殿がセットの儀式空間と、大きな庭園を巡る空間に会所や茶室などが並ぶ接客空間があり、北側には台所などの日常生活を支えたケの空間が広がる。こうした館のモデルは、都のトップ足利將軍邸やそれを補佐した細川管領邸などであった。したがって本来なら四角い方形の館を模倣するところだが、最初に伊佐爾波岡を取り込むことから、その周囲に細長く空間がとられる結果になり、こうした変形になったと推定される。

の経済力と流通のセンターとしての都市道後の位置づけを明らかにした。東南アジア産陶磁器が多いのも特徴である。特に、使用者の社会的権威を表現する威信財を比較すると、そのランクは四国だけではなく、全国で比較してもトップクラスである。中国製の天目茶碗をはじめとする茶の湯の道具、青磁の酒壺や花生、香炉、大皿、白磁の梅瓶といった骨董品の座敷飾りなど、このクラスの館が約束事のようにもっている規範性の高いセットがそろっている。さらに、あの河野の館の本体と考え得る地区からは、高麗青磁の瓶子という13世紀頃に朝鮮半島で作られた最高級の骨董品が採集されている。高麗青磁は戦国大名の中でも越前朝倉館、周防の大内館など、限られたところからしか確認されていない品であり、その格の高さを誇る。

その一方で、儀式やハレの宴会上に使われるかわらけと呼ぶ土器の皿は、地元で作られた地方型のろくろ製のかわけである。当時、大友館、大内館をはじめ、四国では藍住町の三好氏の本拠、勝瑞館など、守護クラスでは大型の庭園をもつ方形館と

京都風のろくろを使わないかわらけをもつことが共通する。つまり京都の足利將軍を頂点とした文化的規範を受容することがステータスであった。それは河野氏の財力ならば不可能であったと思えない。湯築城のプランとも関係して何か別の理由があるのだろうか。

湯築城にはまだまだ不明なことが多すぎる。遺跡は単に私たちの足下の地中に偶然眠っている過去の痕跡ではない。遺跡の保存と整備は、歴史と社会をつなぐ最も太いパイプの一つであり、近年はかつての残すだけの整備から積極的に遺跡に歴史を語らすための整備へと変わってきた。我々が耳を傾ける努力をすれば、寡黙と言われる考古資料も雄弁に語り始めるのだ。大きな謎を残したまま歴史公園の整備はできない。湯築の全体像を調査によって明らかにすることを期待したい。

お・ま・さ・と・し 国立歴史民俗博物館考古研究部。中世遺跡の発掘と整備の先駆けとなった福井県の戦国城下町一乗谷の事業に関わり、中世の考古学にとどまりと浸かった。そこで遺跡を学際的に共同調査、研究するおもしろさと、遺跡の整備が結ぶ歴史学と社会の関係の重大さを学んだ。著書「戦国城下町の考古学」講談社メチエ。